

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 106 ~ 107 円台を中心とするレンジ相場か

[5月4日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月27日~5月1日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.56	107.64(27)	106.36(29)	107.10	-0.41
ユーロ・ドル	1.0804	1.0972(30)	1.0799(27)	1.0962	+0.0139
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	19,619.35	+357.35	日本10年債利回り	-0.018	+0.038
ダウ平均株価	24,345.72	+570.45	米10年債利回り	0.639	+0.039
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 4日 豪3月住宅建設許可件数
中国4月財新製造業購買担当景気指数 (PMI)
米3月製造業受注
- 5日 豪中銀 (RBA) 政策金利
スイス4月消費者物価指数
英4月CIPS非製造業購買担当者景気指数 (PMI) 確報値
ユーロ圏3月生産者物価指数
カナダ3月貿易収支
米3月貿易収支
米4月ISM非製造業景況指数
- 6日 NZ第1四半期雇用統計
豪3月小売売上高
独3月製造業受注指数
独4月非製造業購買担当者景気指数 (PMI) 確報値
ユーロ圏4月非製造業購買担当者景気指数 (PMI) 確報値
ユーロ圏3月小売売上高指数
米MBA住宅ローン申請件数
米4月ADP雇用統計
- 7日 豪3月貿易収支
中国4月貿易収支
独3月鉱工業生産指数
英中銀 (BOE) 政策金利
米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数
カナダ4月Ivey購買部協会指数
- 8日 日本3月勤労者世帯家計調査
スイス4月雇用統計
独3月貿易収支、独3月経常収支
米4月雇用統計
カナダ4月雇用統計

【前回のレビュー】ドル円は107円台を中心とするもみ合いが続いているが、上下にそれほど極端な動きは見込みにくい。110円に迫るような力強さには欠けているが、一方で105円に迫るような円高も想定しにくい。こうした中、ドル円は比較的狭いレンジでのみみ合いになるとした。

【FOMCでは無制限の量的緩和継続を決定】

4月28～29日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）では、無制限の量的緩和の継続を決めた。政策金利は0.00～0.25%に据え置いて、ゼロ金利政策を維持した。声明では「新型コロナウイルス感染が中期的に大きなリスク」「公衆衛生の危機が経済活動を重く圧迫している」「経済が軌道に戻るまでゼロ金利を維持する」「必要なだけ国債やMBSの購入を継続する」としている。

パウエル議長は記者会見で、「4～6月期の経済活動は前例のない落ち込みなる」との見方を示している。また、「経済活動再開は消費を引き上げるが、以前のレベルほどではない」「米GDPは回復しても新型コロナウイルス感染前の水準には戻らない」「雇用が正常に戻るにはしばらくかかる」「市場はしばらくゼロ金利と見ており、それは適切」などと述べた。

米連邦準備制度理事会（FRB）は、3月3日に0.5%の緊急利下げ、3月15日に緊急のFOMCを開催して1.00%の大幅利下げや量的緩和策（QE）の復活を決めた。3月23日にFRBは量的緩和を無制限に行う緊急措置を決定した。

3月31日にFRBが外国の中銀へのドル資金供給開始を決定。4月9日には2兆3000億ドル（約250兆円）の緊急資金供給策を決めた。企業の社債などの買い取りなどを実施して、資金繰りを支援する。これまでに矢継ぎ早に手段を打ち出してきたことで、今後の状況を確認することとなったようだ。

4月27日に開催された日銀金融政策決定会合では、新型コロナウイルスの影響を鑑みて、社債・CPの購入増額、新型コロナウイルス対応金融支援特別オペの拡充、国債を積極的に買入れ（年間80兆円の上限の撤廃）などを決めた。ただ、おおむね市場の予想通りでサプライズもなかった。その後、4月29日にかけてドル円は106円台前半まで下落した。

ドル円は4月30日のNY市場ではユーロ円の上昇などに追隨して107円台半ばまで戻している。4月中旬の108円台前半から軟化した後、106円台前半まで下げ渋っている。ドル円は108円台では上値は重そうだが、105円を割り込むほどの円高にもなりにくいと思われる。このため、目先は106～107円台を中心とするレンジ相場が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、105.00～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、4日に米3月製造業受注、5日に米3月貿易収支、米4月ISM非製造業景況指数、6日に米MBA住宅ローン申請件数、米4月ADP雇用統計、7日に米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数、8日に日本3月勤労者世帯家計調査、米4月雇用統計などがある。

【ECBは量的緩和拡大を見送る】

4月30日に開催された欧州中央銀行（ECB）理事会では、一部で期待されていたマイナス金利の深堀が見送られ、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の規模拡大もなかった。ECBはユーロ圏の金融機関を対象に新しい長期融資制度を立ち上げ、既存ローンの金利を引き下げると表明している。期間は3年で、金利はマイナス1%となる。

ラガルド総裁は記者会見で、「必要に応じて追加措置を講じる用意があると」を表明している。また、新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化により、今年のユーロ圏の経済成長率がマイナス5～マイナス12%になる可能性があるとして述べている。

ユーロドルは4月24日に1.07台前半まで下げた後は戻り歩調にある。欧州では一部の国でロックダウン（都市封鎖）を解除する動きが出始めていることやそれまでの下げの反動から買いが入りやすくなった。ドイツ、オーストリア、イタリアなどで正常化に向けて徐々に動き始めており、これが経済活動再開への期待感につながっており、ユーロドルの底堅い動きの一因となっている。ECBが量的緩和策の拡大を見送ったことで、4月30日にはユーロ買いの動きとなった。

ユーロドルは1.07台前半から1.09台後半まで戻してきたものの、このまま一本調子での上昇が続くとは想定しにくい。4月中旬には1.1000ドル目前で上値を

抑えられて下げに転じており、今回も1.1000前後で上げ一服となり、下げに転じやすいとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650～1.1050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、4日に豪3月住宅建設許可件数、中国4月財新製造業購買担当景気指数（PMI）、5日に豪中銀（RBA）政策金利、スイス4月消費者物価指数、英4月CIPS非製造業購買担当者景気指数（PMI）確報値、ユーロ圏3月生産者物価指数、カナダ3月貿易収支、6日にNZ第1四半期雇用統計、豪3月小売売上高、独3月製造業受注指数、独4月非製造業購買担当者景気指数（PMI）確報値、ユーロ圏4月非製造業購買担当者景気指数（PMI）確報値、ユーロ圏3月小売売上高指数、7日に豪3月貿易収支、中国4月貿易収支、独3月鉱工業生産指数、英中銀（BOE）政策金利、カナダ4月IVEY購買部協会指数、8日にスイス4月雇用統計、独3月貿易収支、独3月経常収支、カナダ4月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。